

氏名	倉本 亜優未
授与した学位	博士
専攻分野の名称	保健福祉学
学位授与番号	博甲第146号
学位授与の日付	令和4年3月24日
学位論文の題目	医療ソーシャルワーカーを対象とした退院援助における家族評価のための情報収集に関する研究
学位審査委員会	主査 竹本 与志人 副査 村社 卓 副査 近藤 理恵 副査 川上 貴代 副査 實金 栄

学位論文内容の要旨

本学位論文は、医療ソーシャルワーカー（Medical Social Worker：以下、MSW）の退院援助における患者の家族に関する評価（以下、家族評価）のための情報収集の実践について研究を行ったものである。

患者の家族成員は、疾病の進行やその対処の良否に関係する正負の社会資源であるとともに、疾病の影響を受け、援助の対象にもなり得る存在である。そのため、患者および家族成員の退院後の療養環境等の調整を行う退院援助では、患者の治療の継続や彼らの望む生活の実現に向けて経済的・心理的・社会的問題を予測し、予防や早期の対応を行うために、家族評価が必要である。とりわけ、家族の課題は、療養中の患者の課題、療養・介護を担う家族成員の課題、家族の人間関係上の課題、それらを取り巻く家族の環境の課題など様々な課題が併存し、相互に影響を及ぼし合っているため、的確な家族評価のためには広範な視点からの情報収集が極めて重要である。そこで、本論文では、MSWの退院援助における家族評価のための情報収集の内容とその実践状況、実践の促進に関連する要因について実証的に明らかにすることを目的とした。

第1章では、MSWの退院援助における家族評価のための情報収集に関する先行研究について確認した。その結果、ソーシャルワークの観点から検討が行われた研究は僅少であり、要介護高齢者を対象とした退院援助のアセスメントツールや退院支援実践の自己評価マニュアルの開発が試みられていたものの、家族に関する情報収集の視点が限定的であること、妥当性の検討が不十分であることなどの課題を有しており、改めて指標の開発に取り組む必要があることが示された。

第2章では、実践報告等を基に文献的検討を行い、退院支援において求められる家族評価のための情報収集の内容を明らかにした。その結果、【家族の課題の有無を明らかにするための情報収集】および【家族の課題の背景を理解するための情報収集】に関する17カテゴリー、84コードが得られ、先行研究には提示されていなかった新たな内容

が確認された。

第3章では、MSWの退院援助における家族評価のための情報収集の構造について構造方程式モデリングを用いて検討した。その結果、【退院に対する家族の感情と代弁機能】【家族の健康状態と介護力】【退院に向けた家族間のコミュニケーション】【退院に対する家族の受容】【退院に向けた家族の役割機能】の5因子で構成されることが明らかになり、その信頼性および構成概念妥当性が支持された。

第4章では、MSWの退院援助における家族評価のための情報収集の実践状況について、クラスター分析を用いて明らかにした。その結果、MSWは3つのクラスターに類型化され、実践に期待される視点を十分に有していると考えられたMSWは全体の約4割にとどまっていたことが確認された。また、全体として退院の促進に関する情報収集の実践頻度は高いものの、今後の生活を脅かす危険性のある潜在的な課題に関する情報収集については実践に至っていない可能性が示された。さらに、クラスター間において「家族のアセスメントに関する教育や研修」の複数回の受講の有無に有意差が確認され、養成・現任教育における示唆が得られた。

第5章では、MSWの退院援助における家族評価のための情報収集の実践の促進に関連する要因について、潜在ランク理論による分析および順序ロジスティック回帰分析を用いて検討した。その結果、実践の促進には「職場外におけるロールモデルの有無」「スーパーバイザー・講師経験」「家族ライフサイクルモデルの学習経験」が有意に関連していたことが明らかになった。

第6章では、以上の結果をふまえて本学位論文の結論を述べた。まずMSWの退院援助における家族評価のための情報収集の実践の背景には、医療機関側からの早期退院への多大な期待と精神的な圧力があると考えられたことから、養成・現任教育では援助に必要な在院日数を確保するため、医師や看護師等の関係職種に対する交渉の技術とそれを支えるコミュニケーション技術を涵養する必要があることを示した。そして、実践の促進に向けて、家族ライフサイクルモデルの援助実践への活用・応用の視点等を養うこと、職場外の教育・支援体制や連携体制を整え、MSWを支えるネットワークを構築することが求められることを提示した。

なお、本学位論文の成果は、退院後の患者および家族成員の十全な療養生活の実現に向けてMSWに求められる退院援助における家族評価のための情報収集について、必要な視点の文献的検討、因子構造の検討、実践状況の確認ならびに実践の促進に関連する要因の探索を行い、MSWの実践能力の向上に寄与する資料を提示できたことにある。

主業績

No.1	
論文題目	医療ソーシャルワーカーを対象とした退院援助における家族評価の 実践に関連する要因の検討
著者名	倉本亜優未・杉山 京・竹本与志人
発表誌名	社会医学研究, 第 38 巻第 1 号, 27-40 頁, 2021 年 1 月

副業績

No.1	
論文題目	医療ソーシャルワーカーを対象とした退院援助における家族評価 の構造に関する要因の検討
著者名	倉本亜優未・杉山 京・竹本与志人
発表誌名	社会医学研究, 第 37 巻第 2 号, 107-120 頁, 2020 年 7 月

関連業績

No.1	
論文題目	倉本亜優未・竹本与志人
著者名	日本の退院支援における家族評価の情報収集に関する文献的検討
発表誌名	岡山県立大学保健福祉学部紀要, 28 巻 1 号, 21-30 頁 2022 年 3 月

論文審査結果の要旨

本論文は、医療ソーシャルワーカー（Medical Social Worker：以下、MSW）の退院援助における患者の家族に関する評価（以下、家族評価）のための情報収集の実践について研究を行ったものである。

第1章では、MSWの退院援助における家族評価のための情報収集（以下、家族評価のための情報収集）に関する研究動向をレビューし、ソーシャルワーク分野の研究が僅少であること、評価指標の妥当性に課題を有することなどを明らかにしている。このレビューを基に第2章では文献的検討を行い、分析対象文献から抽出したデータを84コード、17カテゴリー、2コアカテゴリーに分類し、先行研究には示されていなかった内容を見出している。

第3章では、家族評価のための情報収集について構造方程式モデリングにより検討した結果、【退院に対する家族の感情と代弁機能】【家族の健康状態と介護力】【退院に向けた家族間のコミュニケーション】【退院に対する家族の受容】【退院に向けた家族の役割機能】の5因子構造であることを明らかにしている。第4章では、同様のデータを用いてクラスター分析を行い、MSWを3つのクラスターに類型化し、実践に期待される視点を十分に有していると考えられたMSWが約4割であったことを確認している。第5章では、家族評価のための情報収集の実践の促進に関連する要因を、潜在ランク理論による分析および順序ロジスティック回帰分析を用いて検討した結果、「職場外におけるロールモデルの有無」「スーパーバイザー・講師経験」「家族ライフサイクルモデルの学習経験」が有意に関連していたことを明らかにしている。第6章では、本研究結果の研究意義と臨床意義を述べたうえで、家族評価のための情報収集をより実践できるための方策等を提示している。

本研究成果は、MSWに求められる退院援助における家族評価のための情報収集について、文献的検討、因子構造の検討、実践状況の確認ならびに実践の促進に関連する要因の探索を行い、MSWの実践能力の向上に寄与する資料を提示できたことにある。研究で用いた解析方法で得られた結果は証明水準が高く、その結果新しい知見が提示されており、保健福祉学領域の研究と臨床実践に有意義なものであると判断された。また、公聴会において適切なプレゼンテーションと質疑応答がなされ、申請者は当該分野における十分な専門的知識と研究能力を有しているものと判断された。

以上の結果より、学術上、実際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士（保健福祉学）の学位論文として価値あるものと認める。